柿谷文庫蔵『近世歌人略系』

――翻刻と解題――

山本和明

本学国文学科教授柿谷雄三先生の御蔵書（柿谷文庫）の基礎調査を、現在国文学科教員・助手によってすすめている。柿谷文庫には、藤井高尚や福田美楯など国学者の自筆写本や書き入れ本などが、まとまって所蔵されており、ひとまずその仮目録を作成しようとするものである。山本もその一員として目録作成に充たっている。本学「研究論集」では、専ら国学関連資料などの紹介をしていたこともあってか、過日、先生より畳み物『近世歌人略系』の存在をご教示いただき、借覧までお許しいただいた。それに対する責を果たすために、また近世後期段階での学統理解の一端を垣間見ることのできる、その資料的価値を鑑みて、紹介することにしたい。

『近世歌人略系』解題

今回翻刻する畳み物『近世歌人略系』は、縦三六・二糎、横五七・六糎の刷物で、もともとは識語に「安政七年春　蓼花園識」とあるように、安政七年に摺られたものであった。それがうもれ木となることを惜しみ、「明治廿弐年四月」に、広田常善が長延の嗣子長雄の同意を得て再び板としたものである。安政七年元版を確認しえていないのが、かえすがえすも残念である。

著者の蓼花園こと中川長延は、雅楽頭中川長詮の男にして、文化元年十一月十五日生、三河介・山城権介・讃岐守・宮内少輔を経て、嘉永三年四十七歳の時に正四位下に叙せられ、近衛家諸太夫となる（地下家伝巻廿一）。

慶応四年七月八日に没す、享年六十五。墓所京都広小路北浄華院。歌学においては、天保二年正月十四日、長延二十八歳の時に香川景樹門に入る（「桂園入門名簿」国学者伝記集成所載による）。『大日本歌書綜覧』によれば、安政三年に「近世歌人師弟一覧」写本二巻の著述ありというが（同三一八頁）、現在所在不明。『大日本歌書綜覧』には他にも、中川長延の次の著述を伝える。

○「近世歌人略草　一摺　／中川長延の早く上梓せしを、更に明治二十二年広田常善の上板せるもの」

○「近世歌人略系　一折　／歌人を道統の譜に作り、その生国、家号及年齢などを註し、安政七年春蓼園の識せるもの。明治三十五年二月広田常善発行」

その伝える情報に、若干の錯綜が生じているようである。今回翻刻に付した『近世歌人略系』は、安政七年の春、蓼花園の識せるものを、明治二十二年広田常善が板としたものである。『大日本歌書綜覧』の云う「近世歌人略草」は、今回翻刻に付した「近世歌人略系」ではないかと推測される処である。ただ、明治三十五年二月発行のそれは何か、今のところ確認できていない。

『近世歌人略系』に再び光をあてた広田常善は、京都邦光社歌会幹事をつとめた人物。明治三十五年五月、井上善吉編『稱壽集』に「六十六叟／京都　広田常善」とあることから天保八年生まれか。没年未確認。明治二十二年六月、遠藤千胤発行『邦光社歌会第二集』に、長延の男長雄と共に邦光社京都会員として名を列ねている（京都会員の中には近藤芳介・赤松祐以・遠藤千胤・羽倉信義などの名を見出だすことができる）。未見ながら、明治三十二年『邦光社歌会十二集』の編著があるという（『大日本歌書綜覧』八九〇頁）。

今回翻刻に付した『近世歌人略系』は、確認しうる範囲で、明治四十年に富田良穂の手によって一旦活字化がなされている。その序文を引用しておく。

近世歌人畧系

近世歌人畧系は先哲中川長延ぬし梓にゑりて世にあらはされしに其板の埋木とならむをゝしまれて嗣なる長雄ぬしに語らひ芦かちる浪華の人廣田常善ぬしい斯道の志深き人々に分ち與へられしよしされと今の世にあまねく伝はらされは其足らさるを補ひこゝろみにいか

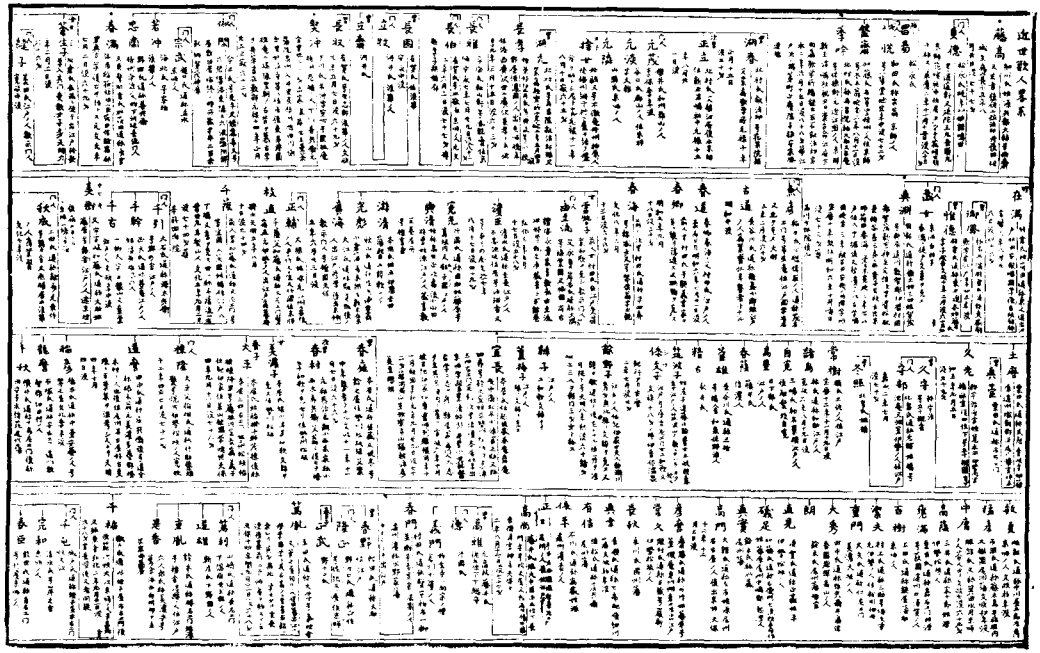
し鉾伊豆国又はわかすむ三河の学系をいささかしるしつおなし学のはらからたち其国々の学系をしりたまはらはしりえらるゝかきりしるしおこせたまへ再びものして斯道の友とちに別たんとす是れ斯道をふむものゝつとめになん明治四十年葉月三河国豊橋のさと人

富田良穂

明治四十年九月五日に、富田良穂自身が著作兼発行者となって金拾六銭で発行。この富田版「近世歌学略系」は、明治期に刊行されたこともあって酸性紙による劣化も激しく、閲覧した大阪市立大学森文庫蔵本（請求番号九一一・一六二―TOM―森文庫）も朽ちかけており、扱いが困難である。また内容においても一部振り仮名などが省略に付されているようである。序文に云うごとく、良穂によって増補されているものの、本来の主旨である歌学系図とは言い切れない側面―例えば、大平門人として示された人々の大半が、旧吉田藩で占められるなど〈地域〉の方に重点があって歌学上の門人とばかりは言い切れないなど、その兼ね合いに問題も多く、今回はその存在を指摘するに留めておきたい。

※

この学統系図には、例えば佐佐木信綱『日本歌学史』、『和歌文学大辞典』、小泉苳三『近代短歌史明治編』などに付された系統図と異なる〈情報〉も混在する。とりわけ、近世後期に関する点では興味深いものがあると思われる。山本の興味から、任意に一、二例をあげるならば、大平門の「正韶」は、その説明に「池田氏。称左馬大充。住京師四條。号東籬亭。民間所用書著数百部」とある。『絵本通俗三国志』『北条時頼図会』などの読本作者東籬亭菊人が大平門であったことは、不勉強ゆえ知らずにいた。また「蓮月」については「始為泰州室後尼トナリ」といった情報が記されている。今回は資料紹介にとどまるため、この『近世歌人略系』の伝える情報が、どの程度まで信頼できるものかは、今後の課題として残されているとして良いだろう。



柿谷文庫蔵「近世歌人略系」一面

柿谷文庫蔵『近世歌人略系』

翻刻「近世歌人略系」

近世歌人略系

近世歌人畧系

細川氏姓源兵部大輔号幽斎

● **藤高**　又玄旨後従二位法印丹後田辺城主慶長十五年八月廿日没七十七才

門人

貞徳　松永氏晩年以俳諧鳴世
号逍遙軒又延陀王丸長頭丸
京師花咲社中住居ヨツテ花咲翁
トモ称ス承応二年十一月十五日没八十三才

孫

昌易　松永氏

門人

以悦　和田氏称宗翁　京師ノ人
号一華堂延宝年中没七十二才

盤斎　加藤氏名等空摂州ノ人住京師
号冬木翁延宝二年八月十一日没
北村氏称再昌院初久助又呂庵

● **季吟**　号拾穂軒元近江国ノ人京師
新玉津嶋社祝タリ蒙台命江府下
向為歌学所賜録五百石叙法印宝
永二年六月十五日没八十八才葬江
戸池ノ端茅町正慶院子孫守家風
連綿

男

湖春　北村氏叙法印号花果院継
父業為歌学所元禄十年
正月十五日
没五十才

次男

正立　北村氏父移江府後止京師
住新玉津嶋社中元禄十五
年八月廿
一日没

門人

元茂　櫻井氏和州郡山ノ人
享保季年没

元淡　谷口氏郡山ノ人住京師
字大雅

元隣　山岡氏京師ノ人
妙融又号不徹庵丹州柏原ノ人
後播州網干村ニ盧ヲ結フ盤
渓ヲ師トシ尼トナル元禄十一年
八月十日寂六十五才

捨女（ステ）

男
湖元　北村氏号再昌院叙法印継父
業為歌学所寛延二年五月四日寂
始長好望月氏名兼友号小狭

長孝　野屋信濃国ノ人出京師晩年
住洛西広沢世ニ広沢長孝ト云延
享九年三月十五日没六十三才

門人
長雅　平間氏軌山軒号風観齋住京
師宝永七年七月廿九日没八十二才

門人
長伯　有賀氏号以敬斎京師ノ人元文
二年六月二日没七十七才伝
歌学子孫猶存

男
長因　有賀氏住浪華

門人
立牧　安永中没
河井氏浪華ノ人

男
立齋　河井氏

男
長収　有賀氏号生志軒浪華ノ人文政
元年五月七日没六十九才

●

契沖　下川氏名沖字空心号円珠庵
摂州尼崎ノ人下川善兵衛元
全男也十三才出家浪華生玉曼荼
羅院泉州久井里及摂州池田川側
今里妙法寺等ニ住居後東高津円

柿谷文庫蔵『近世歌人略系』

珠庵ニ退隠皇朝ノ古昔ヲ慕古学ヲ興著書在数部元禄十四年正月廿五日寂六十二才

門人

似閑　今井氏号見牛又偃鼠亭又号
六児楼洛東隠士六波羅阿仏屋敷住居臨終ノ時所蔵写本二百余部納賀茂神庫

門人

宗武　樋戸氏通称主水
京師ノ人

若冲　海北氏号岑柏
浪華ノ人

忠粛　野田氏通称善兵衛
摂州今津ノ人始下河辺長流門人

●**春満**　又東麿羽倉氏姓荷田通称斎官
洛南稲荷社祠宮荷田信詮宿称
男興古学復古ヲ任トス元文元年
七月二日没六十九才

女

蒼生子　羽倉氏在満ニ従テ出江戸修歌
学入其門受教女子多天明六年二月二日没
六十六才

門人

縫子　菱田氏江戸ノ人教示門人
寛政中没

甥

在満　羽倉氏姓荷田通称東之進出江
戸仕田安殿唱国学後有故辞祿
宝暦元年八月廿六日没四十六才

男

御風　初名冬満羽倉氏通称東蔵嗣
歌学有江戸享和三年没

男

惟徳　羽倉氏通称東之進本姓藤井氏

字子馨文政十年二月没六十三才

門人

武女　京師白拍子
春満ニ従テ文章ヲ克ス
岡部氏通称衛士始三四姓賀茂

●

真淵　号縣居遠州敷智郡伊場村岡
部賀茂新宮神主定信次男浜松駅
長梅谷甚三郎為養子有故去出京
師荷田春満ニ受業寛延三年出江
戸住八丁堀後又移浜丁以古学鳴
世延宝三年被召田安殿為国学師
宝暦十年致仕明和六年十月晦日
没七十三才葬
品川少林院後山

門人

魚彦　稲生氏下総楫取ノ人通称茂右
ヱ門号茅生庵住江戸国学有名
又画ヲ克ス天明
三年二月没六十才

古道　長谷川氏通称謙益小野姓江戸
ノ人為業醫壮年瞽者トナル

明和中没

春道　春郷春海ノ父村田氏江戸ノ人
豪商タリ明和六年七月廿一日没

春郷　前人男村田氏号顕義堂家ヲ
弟ニ譲リ隠遁ス又蹴鞠ヲ克ス
明和五年九月
十八日没三十才

春海　前人次男村田氏通称平四郎
号錦織斎又号琴後翁字士観
文化八年二月
十三日没六十六才

女

曾勢子　前人女村田氏在江戸受翁
業和歌ヲ克シ教示門人

門人

由豆流　父永膺岸本氏通称大隅(クウ)
号棣棠園又椿園尚古
証閣永膺蔵書数部由豆流
以好学既文庫蔵書三万餘巻
弘化三年五月
十七日没五十八才

柿谷文庫蔵『近世歌人略系』

濱臣　清水氏通称玄長江戸ノ人
不忍池辺住居号泊洎舎又
さゝなみの屋文政七年
八月十七日没四十九才

寛光　片岡氏通称周助姓藤原号
蔦垣内又郁子園江戸ノ人
始称高田正次郎後小山田
将曹姓源江戸ノ人蔵書数
万巻居所
号擁書楼

與清

游清　本間氏姓平伊豫吉田
藩醫工詩歌ナリ

光彪　秋山氏通称庄兵衛豊前
小倉藩為京邸主数年在京
大江氏通称靱負越後ノ

廣海　人出江戸修学後出京師
教示門人号樫園天保
五年六月廿三日没

門人

正輔　大堀氏姓源元江州彦根
ノ人号竹之屋又竹圃住京師

枝直　千蔭父加藤氏通称又左ヱ門初名
為直元伊勢ノ人出江戸為幕府
騎士天明五年八月
十日没九十四才
前人男加藤氏通称又左ヱ門号

千蔭　芳宜園又茉園姓橘江戸八
丁堀又書ヲ克ス世ニ称千蔭流一名
常世丸耳梨山人文化五年九月二日
没七十四才葬
本所回向院

門人

千引　大石氏通称源太兵衛
号野の舎江戸ノ人

千幹　正木氏通称蔓庵江戸ノ人
始清原雄風門人

千古　一柳氏字万豫山又章堂
江戸ノ人文政年中没
又宇万岐加藤氏通称大助姓

美樹（ウマキ）　藤原号静舎江戸ノ人遊京摂
後病ニカヽリ

京師二條ニテ没

門人

秋成　上田氏通称餘斎元東作
号鶉之舎又無腸居士浪華
ノ人為業醫
文化七年没
栗田氏通称民部壱岐守姓藤

土廬　原遠州城飼郡平尾八幡宮神主

男

真菅　栗田氏通称市右ヱ門
称宇治斎宮姓荒木田伊勢内宮

久老　権称宜従四位下五十槻園享
和三年九月五日
没五十九才

男

久守　称宇治
号五十槻舎
北畠氏通称元輔姓橘号

門人

守部　池庵又池室伊勢人住江戸
嘉永二年七月
没七十才

男

冬照　北畠氏姓橘

常樹　橘氏土佐ノ人住江戸
宝暦十二年十一月十九日没

諸鳥　林氏通称和助江戸ノ人
寛政六年八月十九日没

自寛　三嶋氏初名景雄江戸ノ人
後薙髪改自寛

高豊　日下部氏
江戸ノ人

春蔭　藤井氏
信濃人

菅雄　長谷川氏通称三折
号橘舎和泉佐野浦人

精古　永井氏
始茂子進藤正幹養女土岐頼意
妻江戸ノ人筑波山ノ歌ニヨツテカク
称ス

筑波子

倭文子　江戸弓屋吉左ヱ門女工和歌又文辞十八才ノ時伊香保温泉紀行アリ宝暦二年七月没廿才

餘野子　江戸ノ人任紀伊家女夫人称瀬川秀才無比殊ニ文辞ヲ克ス又詩ヲ賦退任ノ後尼トナル住所ヲ涼月院ト号天明八年秋没六十餘才

以上三人ヲ縣門三才女ト称ス

辨子　江戸ノ人工和歌文辞ナリ

薫梅子　江戸ノ人殊ニ文辞ヲ克ス本居氏始称健蔵春庵舜庵

宣長　後中衛幼名小津冨之助又弥四郎号鈴之屋姓平勢州松坂郷士小津三四右ヱ門定利次男後復本居壮年出京師学醫業後皈国為業小児科目醫古学ニ志ヲ興シ縣居翁為門人大志ヲ立其名海内ニ震フ寛政六年十月被召紀伊家加奥醫師列賜禄同年十一月皈国享和元年九月廿九日没七十二才葬同国山室妙楽寺山謚秋津彦美豆櫻根

男

春庭　本居氏通称健蔵又健亭号鈴之屋住勢州松坂継父業中年瞽者トナル文政十一年十一月七日没六十六才

次男

春村　元称恭治郎嗣小西某家称小西太郎兵衛父翁ニ従ヒテ修学和歌ヲ克セリ住勢州松坂

女

美濃子　本居氏嫁小津某和歌文辞ヲ克ス住勢州松坂

養子

大平　本居氏始稲掛十助茂穂後称本居三四右ヱ門勢州松坂稲掛棟隆男号藤垣内宣長為義子仕紀伊家住若山継国学鳴世天保四年九月十一日没七十八才

門人

棟隆　大平父稲掛氏通称什助後薙

髪号悦可伊勢松坂ノ人寛政
十二年四月七日没七十一才

道麿 田中氏通称庄兵衛後号道全
称樵木翁元美濃多芸郡樵
木村ノ人也後住尾州名古屋好古事
殊ニ万葉集ヲ深考シ人ナリ天明
四年十月
四日没

稲彦 橋本氏通称中臺安芸ノ人号
琴之屋文化季年没

龍麿 石塚氏通称安右ヱ門遠州敷
智郡細田村ノ人

千秋 横井氏通称十郎左ヱ門後称
田守号木綿苑尾州藩

敏夏 服部氏通称中川屋五郎左ヱ門
京師ノ人文政初年没

猛彦 市岡氏通称藤太郎号椎垣内
又槲園尾州藩文政初年没

中庸 服部氏又称箕田水月京師
ノ人茶人タリ文政七没六十九才

高蔭 三井氏通称宋十郎姓源
伊勢松坂ノ人

甕満 夏目氏通称嘉右ヱ門姓源

百樹 号萩園遠州白須賀ノ人
上田氏通称鍵屋藤助
京師ノ人

潔夫 村上氏通称三助号倭文舎
元伊勢ノ人住摂州伊丹

重門 大矢氏通称仁左ヱ門
美濃大垣ノ人

大秀 田中氏通称弥兵衛号湯津
香園飛驒高山ノ人

朗 鈴木氏尾州藩儒宦

直見 須賀氏通称正蔵姓平
伊勢松坂ノ人

磯足 加藤氏通称右衛門七後改寿作
姓藤原尾州中嶋郡起里人

眞實 鈴木氏称仙蔵
尾州藩

高門 大舘氏通称左市姓尾州
名古屋ノ人後出京師天保
十二年十二
月三日没

彦麿 齋藤氏通称可怜姓藤原号
葦仮庵奥州棚倉藩出江戸

常久 殿村氏通称万蔵号巖軒

長秋　伊勢松坂ノ人
衣川氏因州藩

眞幸　長瀬氏通称七郎肥後細川
藩文政初年没

有信　植松氏通称彦兵衛
尾州藩

依平　石川氏通称為蔵姓源
遠州浜松ノ人

正明　石原氏元正聴通称喜左ヱ門
尾州ノ人後住江戸
藤井氏姓大中臣正五位下長

高尚　門守号松之屋又松齋備中国
吉備津宮神主天保十
二年八月十七日没七十七才

男
高雅　元高枝藤井氏
従五位下下総守

門人
徳　片岡氏
義門　妙玄寺一向宗ノ僧
若州小浜ノ人

村田氏通称蟹守初名一柳

春門　並樹号多豆舎浪華ノ人
遠州浜松水野家藩
士トナリテ出江戸

男
春野　村田氏通称大助
住江戸

門人
隆正　野々口氏通称正作
号佐紀乃屋住京師

養子
正武　野々口氏
平田氏通称大学号気吹舎

篤胤　又菅之屋羽州久保田藩出江戸
修学国学ニ其名高ク著書百部ニ
余レリ英才無比ノ学士タリ宣長
没後墓前ニテ師弟ヲ約スト云
天保十四年閏九月十一日没六十八才

門人

篤利
山崎氏通称長左ヱ門
下総国崎玉郡ノ人

道雄
新庄氏下野国ノ人
鈴木氏通称勝右ヱ門姓源
号櫃舎淡路ノ人住江戸

重胤
六人部氏称美濃守号
蔦舎洛西向明神々主
出京師寓居
城戸氏通称蛭子屋市右ヱ門後

是香

千橋
改範次姓大江京師ノ人号蠹舎
又紙魚舎弘化二年九月廿一日没
六十八才宣長没後久老同疑

門人

千屯
城戸氏通称蛭子屋市右ヱ門
姓大江
清水氏号岸之舎
京師ノ人

完和
能世氏通称角右ヱ門
号竹屋京師ノ人
伴氏通称州五郎号立入若州

春臣

信友
小浜藩古学ヲ研究シ著書頗
多シ宣長没後為門人弘化三年十
月十五日没七十四才

男

信近
伴氏通称金左ヱ門
若州小浜藩

門人

種松
谷森氏通称二郎又外記姓平
号菫壺又号棗井京師ノ人

輝實
山根氏称主税少属
姓藤原図書寮宦人

男

建正
本居氏通称兵衛姓平
紀州藩壮年没

次男

清嶋
本居氏通称左衛士
壮年没

末男

永平
本居氏仕三州吉田藩
壮年没

柿谷文庫蔵『近世歌人略系』

養子
内遠 本居氏通称弥四郎
紀州藩安政二年没

藤子 本居氏
前人室

男
豊顕 本居氏通称稲楠
紀州藩

門人
亮澄 石津氏通称並輔
浪華ノ人
幸典 海野氏通称源兵衛姓滋野号
遊翁住江戸下谷工和歌語辞
美石 中山氏
参州吉田藩
音主 石金氏通称佐治兵衛
奥州信夫郡ノ人
光輔 近藤氏通称半五郎
肥前長崎ノ人
種信 青柳氏通称勝次
筑前藩
直躬 水野氏通称恕平号荻園

諸平 始清水浜臣門人
加納氏通称兵部
紀州藩
大橋氏通称九右ヱ門号柿庭

長廣 姓平京師ノ人嘉永四年三月
五日没六十
四才

男
長熹（ヨシ） 大橋氏通称九右ヱ門

門人
為由 細谷氏通称新助
東本願寺内人
伴雄 長沢氏通称右ヱ門姓源
号絡石舎紀州藩
正紹 池田氏称左馬大充住京師四
條号東籬亭民間所用書著数
百部

●
似雲 武者小路實陰公門人
初名如雲芸州広嶋ノ人河州
臨川寺開山号春雨亭遊歴諸

国不定住所世ニ今西行ト称ス又
河内弘川寺ニ結草庵住居八十六
才ニテ没

●

長流　下河辺氏本氏小崎通称彦六
名晃平和州宇田ノ人隠栖浪
華契沖ノ友人タリ貞享三年六月
三日没六十三才

●

恭光　称梨本茂睡戸田氏初名八兵
衛後称渡辺茂右ヱ門号寒露
軒戸田与右ヱ門忠勝次男江戸ノ
人也世ノ人依名歌梨本或隠家求メ
又橋ナト称ス唱古学ハ此人近世
ノ魁タリ宝永三年四月十四日没
七十三才

●

綾足　建部氏号寒葉齋名凌岱一号
吸露庵安永三年三月十八日
没五十三才
武者小路實岳卿門人
伴氏名資芳号閑田廬江州八

●

蒿溪　幡ノ人住洛東大仏文化三年七
月廿五日没七十四才
始有賀長伯門人

男

資矩　伴氏称直樹
号垂雲軒又酔夢庵備後福山

澄月　ノ人住洛東岡崎村寛政十年
五月二日没
八十五才

門人

夢宅　桃澤氏号無雲軒
後為景樹門人
冷泉為村卿門人

●

祐為　梨本氏正四位下上総介下鴨
祠官享和元年六月十七日没

男

祐久　梨本氏上総介

通蓮　一名空達伊勢高田派僧出京師
改草衣安永三年五月廿八日没
宮部氏通称孫八姓藤原上州
高崎藩士後烏丸光胤卿門人

義正

柿谷文庫蔵『近世歌人略系』

萬女　前人室

義直　前人男
右三人ノ集ヲ号三藻類集
池野氏通称秋平名無名字貨
成京師ノ人書画有名

大雅　前人室称町後改床
又書画有名
萩原氏通称七左ヱ門柳営幕

玉瀾

宗固　府先隊騎士住四ツ谷荒木横
町号百花庵天明四年五月二日没
八十二才始光栄卿實岳卿為門人

男
為長　萩原氏

門人
保己一　塙検校号温古堂武州秩父
郡保己村ノ産始宗固入門
習詠歌倭学業建倭学講談所教
授学生集二万余巻書名群書類
従其功積三十九年集成
小沢氏通称帯刀姓平号観荷

蘆庵

堂元尾張ノ人住京師岡崎村
又太秦十輪院寓居享和三年七月
十一日没七十九才

門人
黙軒　前波氏元但馬国豊岡ノ人通
称矩輔住京師為醫業号樵
雨庵文政元年十二
月十日没七十四才

敬義　田山氏通称従事伊賀藤堂家
藩士初称潜蔵後出京師修学
文化十一年四月十
九日没四十九才

勝義　小野氏通称元太郎後号自然
京師ノ人中年出江戸修学後
又皈京
小川氏名布淑通称勇号九々

萍流　園京師ノ人文政三年二月廿
七日没六十五才
右黙軒已下四人称芦門四天王

男

夢翁　小川氏号春洞又如煙

蓑山　岸本氏備前岡山ノ人
後出京師

柳齋　松本氏
名照道後改昇道備後
府中明浄院弟子

間齋　岡本氏初保志通称内記賀茂
社氏人仕久我家為六位侍任
兵庫允又学烏石善書
橋本氏洛西梅宮祠宦従五位

保足

経亮　上肥後守姓橘号梅窓或香圃
又藤原貞幹為門人有職ニモ委シ
文化五年四月十日没四十七才

門人

為端　安藤素軒為實玄孫
羽倉氏姓荷田従四位上上野介

信美　洛南稲荷社祠宦文政十年十
一月没

男　羽倉氏従四位下丹後介

信愛

男

信充　羽倉氏紀伊守号梧東

宋閑　瀧原氏元豊常通称将監京師ノ人
為醫業天保十一年没

重賢　小野氏従四位下筑前守号介良
迺舎主殿寮宦人天保五年正月没
元石見国ノ人住京師
詠歌ヲ克ス

物外尼　矢部氏初名久子美濃国ノ人
同国大平氏ニ嫁ス有故去後
出京師後仕某国主女夫人又皈京
師為尼号静恵翌年九月没廿九才

正子

●**成章**　冨士谷氏通称仙右ヱ門字仲
達号北辺京師ノ人筑後柳川
藩京邸ノ主タリ儒者皆川淇園ノ
弟奇才超絶開一家之学風安永八
年十一月没
四十二才

男
御杖　冨士谷氏通称仙右ヱ門元
成寿成元継父業文政六年
十二月十六日
没五十六才

次男
成胤　冨士谷氏

門人
基廣　並河氏通称織部京師ノ人天保
十二年十一月二日没五十二才
隆璉　榎並氏通称助之丞京師ノ人
著書有数部弘化元年五月廿
五日没
七十才
美楯　福田氏通称左兵衛号吉野屋
京師ノ人嘉永三年五月三十日
没六十二才

●**季鷹**　山本氏正四位下安房守賀茂
縣主号雲錦亭上賀茂祠宦
始有栖川職仁親王御門人也又狂歌名
アリ天保十三年九月没九十一才

門人
躬弦　安田氏通称一庵始名若沖号
棗本越前福井醫宦住江戸
雷臣　垣本氏通称貢姓菅原号蓼舎
天保十一年十一月三日没六十三才
行敬　青木氏称左兵衛少尉姓宗岡
京師宦人
友于　倉谷氏通称主水姓藤原号
桂園京師ノ醫宦タリ
直兄　松田氏正四位下伊豫守元越中
介姓賀茂縣主号藤園上賀茂
祠宦嘉永七年二月
廿一日没七十二才

男
内直（ナカ）　松田氏称遠江守賀茂祠宦号
小忌園安政三年三月十七日没

門人
経香　三宅氏称備中介又丹後守
賀茂祠宦号音之舎

太氏（ヒロ）　座田氏称河内介号菖蒲園
河本氏通称文太郎姓三宅字

公輔　子洲備前岡山ノ人住京師天保
三年六月十八日没
五十八才

男
延之　河本氏通称文輔姓三宅
号可々楼京師ノ人

清水谷實業卿門人
香川氏称善鄰名景継号梅月

●宣阿　堂一名尭真周防岩国藩士有
故退身出京師住一條享保二十年
九月廿二日没伝家風子孫存

男
景新　香川氏号梅仙堂
元文四年十一月廿三日没

門人
尚房　野村氏通称権六号一枝軒
備中岡山ノ人住京師

梅風　号伯水堂江戸ノ人
住京師

男
景平　香川氏号梅月堂寛政
元年四月八日没

男
景柄　香川氏陸奥介後黄中号梅月
堂徳大寺家六位侍文政四年十
一月九日没七十七才

養子後離別　香川氏通称式部後長門介又

●景樹　任叙肥後守従五位下号梅月
堂又東塢亭桂園因幡ノ国鳥取ノ
人若年出京師黄中ニ従テ修歌学
後為養子有故去別ニ一家ヲナス
近世詠歌堪能ノ人也世人各翁ノ
風調ニ倣フ爰ニ至リ和歌ノ風躰一
変セシハ實ニ翁ノ名誉也住洛東岡
崎村又樵木町松原北鴨川西岸ニ寓
居天保十四年三月卅日没七十六才

謚桂園霊神

同

景欽　香川氏黄中為養子後離別復
本姓佐々木通称雅楽号雪屋
京師ノ人天保
二年没

養子

景嗣　香川氏通称木工住岡崎村
号梅月堂

男

景恒　香川氏元景周通称式部任陸
奥介号東塢亭又桂園住洛東
岡崎村

門人

直好　熊谷氏通称勘作又助左ヱ門姓平
号長春亭周防岩国ノ人住浪華

斐雄（アヤ）　菅沼氏通称頼母
住江戸

忠友　穂井田氏通称靱負又漂助号
桃園姓大江三河国ノ人出江戸
修学後住京師古学ニ有名弘化四年
九月十八日没五十六才

清樹　山本氏通称伊織但馬出石ノ人
平生亀ヲ愛ス世ノ人亀園先
生ト号ス住京師
教示門人

幸文　木下氏通称民蔵備中国長尾村
ノ人出京師修歌学

自休　中川氏元長員従四位下刑部少輔
有栖川宮大夫後剃髪改應然号
望南亭洛西住平野村後又住居下立売

知紀（トモノリ）　八田氏通称喜左ヱ門姓藤原
号桃園薩州藩士数年在京後
又皈国工和歌也

清安　山田氏通称市郎左ヱ門号作楽
園薩州藩士為京邸主数年在京
修歌学嘉永元年十一月
皈国ニテ没五十六才

慧雲（エ）　山本氏名嘉之称相模守後剃髪
改慧雲大炊御門家大夫教示門人

保孝　岡本氏正四位下治部大輔甲斐守
為書博士一條殿大夫文化十四
年四月廿九日
没六十九才

清根　松園坊名随正洛西北野宮仕

斧木　号松園
　号岳雲軒継澄月遺跡
　名正澄高橋氏住居
　浪華教示門人
　児山氏住江戸
　冨田氏通称右ヱ門江州彦根

残夢

紀成（ノリシケ）

泰州
　ノ人出京師修学教示門人
　天保十一年五月廿五日没五十才

蓮月　太田垣氏始為泰州室後尼
　トナリ住洛東聖護院村
　作陶器彫自詠与好人

勝称（ナナ）　中嶋氏通称司書後剃髪改
　ノ翁（ヘチ）号柿園近衛殿内人住居
　一條堀川工和歌也安政
　二年九月廿九日没六十六才

忠秋　渡氏元安雄通称新太郎号
　楊園近江舟木ノ人住京師

正賢　高橋氏通称喜間太又随翁
　京師ノ人

正寿尼　柏屋某室
　京師ノ人

富子　高畑氏称式部
　京師ノ人

名高きがもれたるも少なから
ねとわつかなる紙一ひらに
しるしかたけれは今これを省
きてふたゝひ拾遺に物すへく
なむ

安政七年春　　蓼花園識

此一ひらハはやくより中川長延ぬしのみつから梓にゑりて摺ものとし諸君にわかち給ひし也其板のうもれ木とならんことをゝしみこたひ嗣なる長雄ぬしに斗りさらにものして同し道の志ふかき人々に与ふることゝハなりぬ

明治廿弐年四月　　国洛　広田常善

※資料の翻刻をお許しくださいました柿谷先生ならびに参考資料の閲覧をご許可くださいました各図書館に深謝申し上げます。